

熊本県立菊池高等学校 令和7年度(2025年度)学校評価表

<p>1 学校教育目標</p> <p>【教育方針】「<b>道徳性の陶冶、真理の探究、心身の錬磨</b>」      【校訓】「<b>汗と夢</b>」</p> <p>【育てたい生徒像】</p> <p>① 豊かな人間性と正しい人生観・世界観を備えた生徒</p> <p>② 勉学への意欲と困難に屈せず人生を生き抜く力を身に付けた生徒</p> <p>③ 強健な身体と強固な意志を持った生徒</p>
--

<p>2 本年度の重点目標</p> <p>① 確かな学力の育成と個に応じた指導の充実</p> <p>② キャリア教育の推進と個性を生かす進路指導の充実</p> <p>③ 道徳教育の充実と命を大切に作る心の育成</p> <p>④ 国際・社会の形成者としての資質の育成と国際社会に生きる日本人の自覚の醸成</p> <p>⑤ 体力の向上、豊かなスポーツライフの継続、心身の健康の保持増進及び安全教育の充実</p> <p>⑥ 安全で安心できる学びの場となる環境づくりの推進</p> <p>⑦ 地域に開かれた信頼される学校づくり</p>
---

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	特色ある学校づくり	地域を柱に社会に貢献できる人材の育成	○探究学習の充実	○企画部を中心として、探究学習の計画立案、円滑な実施を図る。 ○従来の菊池市との連携に加え、地域の起業家や大学との連携も強化する。 ○企画部を中心に、DXハイスクールの取り組みを探究活動に取り入れる。 ○AR、VRなどを活用した地域活性化やデータサイエンス、AIに関する高大連携を進める。	A	○2年生を中心に、菊池市、未来創造塾、熊本大学共創学部との連携した取組が推進できた。 ○菊池の松囃子を撮影し、能場を3Dスキャンするなど、デジタルアーカイブ化に着手することができた。 ○温泉街リブランディングや竜門地域活性化のワークショップなど菊池市の取組にも生徒が参加している。 ○VRゴーグルによるVRの体験を夏休みの小学生への学習支援の際に実施し、好評であった。 ○東大、熊大、崇城大との連携を進めることができた。
			○個に応じた指導の充実	○授業でICTを活用し、個別学習を取り入れる。 ○二者面談、三者面談を実施する。 ○菊池市公営「前進塾」と連携し、個別学習のサポートを図る。		

		地域の小中学校との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校に対する啓発</li> <li>○中学校に対する啓発</li> <li>○教育活動の情報発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○夏休みに小学生に対する学習支援を実施する。</li> <li>○中学生向けにオープンスクールを実施する。</li> <li>○HPによる発信を内容・量ともに充実させる。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○5つの小学校から22名の児童が参加した。</li> <li>○HPは担当部署以外からの協力が必要。今後はSNSについても検討している。</li> <li>○12校の高校説明会に参加し、菊池高校の説明を行った。DXについても、実演を交えた説明を実施できた。</li> </ul>
安全管理の整備	安全管理に関する意識向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校内安全点検の実施</li> <li>○自然災害時に対応したマニュアルと体制を整備</li> <li>○危機管理マニュアルの活用</li> <li>○学校感染症防止対策の徹底</li> <li>○不審者対</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○心身サポート部を中心に安全点検計画を実施する。</li> <li>○産業医の助言を基に安全な環境作り実践する。</li> <li>○エアコン使用時の基準や換気の励行など環境整備を行う。</li> <li>○防災主任を中心にマニュアルを整備し生徒、職員に周知、啓発を行う。</li> <li>○基本方針やリスクを明らかにし、リスク発生時の対応や、責任者・役割を明確にする。また年度ごとに見直す。</li> <li>○生徒・職員の健康状態の把握と感染症の集団発生時の迅速な対応を行う。</li> <li>○防犯カメラの</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○職員による安全点検は夏季冬季休業前の2回を実施した。</li> <li>○産業医による職場巡視も実施し、昨年よりも改善されている点（廊下等）も評価していただいた。高所の棚にある荷物や書籍等の転落防止策を継続して指摘され、対応が必要。</li> <li>○エアコン使用の基準については使用開始時にWBGTについて説明した。生徒の体調不良の訴えが挙がった場合は養護教諭が教室の検査に回り対応を行った。</li> <li>○周到な計画の基にシェイクアウト訓練の実施ができ、災害への認識・対応力が身についたと思う。</li> <li>○消防署との密な連携によって、より実際に即した火災時の避難訓練をより実際に則した実施することができた。モバイルバッテリーの発火への注意も併せて行えた。いずれも事後アンケートを実施したので課題を次年度につなげたい。</li> <li>○本年度から落雷防止に関する研修も職員・生徒へ実施ができ、防災・安全に対する意識が高まった。</li> <li>○毎日の健康観察の実施により、感染症流行状況把握や学級閉鎖（今年度2学級）の迅速な判断に繋がった。</li> <li>○正門方向及び正面</li> </ul>	

			策	設置		玄関方向に向けて防犯カメラを2ヶ所設置した事で防犯を強化することができた。 ○危機管理マニュアルの案を作成したが完成に至っていない。不審者に対する備えが不足している。
開かれた学校づくり	公開授業の推進		○公開授業を年に2回以上設定	○保護者・地域への公開授業の周知を行う。	B	○保護者へはすぐ一、各中学校のPTA会長へは郵送で案内を送付したが、観覧者がさらに増えるよう工夫していきたい。
	広報活動の推進		○学校HPや広報誌「きくち」への掲載充実  ○学校パンフレットやリーフレットの拡充	○学校HPの迅速な掲載 ○菊池市と連携を図り、市の広報誌へ記事を掲載する。 ○学校説明会などの情報発信のリーフレット作成や説明会で使用するパンフレットを充実させる。	A	○HPはタイムリーに上げることができた。(R6:50記事⇒R7:76記事) ○広報菊池にもタイムリーな記事を掲載することができた。 ○リーフレットは在校生および卒業生の記事を大幅に充実させ、生徒目線の内容に改訂できた。
	育友会との連携		○育友会総会・各種委員会の充実	○各行事等において育友会役員との積極的な連携を図りながら取り組む。	B	○総務厚生、広報、育友会林活動など学校行事が錯綜するなかでも適宜対応することができた。課題としては学校行事の精選、一部の保護者への過重負担、各種委員会の時間帯などが挙げられる。
業務改善と働き方改革	勤務環境等の整備		○校務分掌の見直しと職員間の連携強化  ○部活動休養日の徹底  ○定時退勤	○面談等による意見交換を通して適宜改善を図る。 ○業務を集約、整理して業務を適正かつ効率化する。  ○月ごとの活動計画を提出し、遵守する。  ○定時退勤日に	B	○職員から話を聴き、今後も適宜対応していく。 ○県教育委員会の業務改善・働き方改革推進モデル校2年目として、委託業者からの助言や研修等により、昨年度よりも職員の時間外勤務時間の縮減につながった。ただ、一部の職員への業務集中の傾向は改善されておらず、負担感軽減も含め、更なる工夫や対応が必要である。 ○毎週水曜日の定時退勤日に合わせて、原則部活動禁止を導入した。各部ごとに活動計画を作成し、計画的な活動を行えた。 ○毎月第2、第4水

			<p>日の実施</p> <p>○年休等の取りやすい雰囲気づくり</p> <p>○時差出勤の導入</p> <p>○校務のDX化</p>	<p>おける呼びかけと周知を行う。</p> <p>○年休15日以上取得者の増加を図る。</p> <p>○時差出勤の導入により、働き方改革を推進する。</p> <p>○Chatの活用、共有ドライブ内のファイルのシェア、デジタル採点システム、生成AI等の活用で、業務の効率化に取り組む。</p>		<p>曜日を定時退勤日として職員に周知し、一定の効果が見られた。</p> <p>○年休取得については、本採職員の平均取得日数は13.1日(昨年15.4日)、15日以上の取得者は44.1%(昨年42.9%)であった。今後も年休を取得しやすい職場環境を整えていきたい。</p> <p>○通年で時差出勤を申請した職員が2名、夏季休業中に2名の申請があり、関係職員にとっては、働き方改革につながったと思われる。</p> <p>○不在時の連絡に、GoogleChatを活用することにより、伝言メモや伝達の手間や、連絡不通等の不具合が改善された。その他、ファイルのシェア、デジタル採点システム、生成AI等の活用で、業務の効率化につながった。</p>
学力向上	教科指導力向上	授業方法の改善	<p>○観点別評価を生かした授業づくり</p> <p>○授業研究</p> <p>○評価方法の研究</p> <p>○ICT機器の活用(学習用端末の活用)</p>	<p>○研究授業や公開授業を実施する。</p> <p>○評価方法について各教科で検討したものを全教科で共有し改良していく。</p> <p>○学期成績や評定のチェック体制を整える。</p> <p>○生徒の1人1台端末を活用し、学習の個別最適化を図るとともに、パフォーマンス活動の場面を増やし、主体的・対話的で深い学びの授業を实践する。</p> <p>○GoogleClassroomを積極的に活用する。</p>	B	<p>○公開授業週間を年間2回設定したが、設定だけで終わった感がある。今後は各教科の研究授業や初任者研修と組み合わせる等の工夫をしていく。</p> <p>○評価方法について、各教科でループリックの作成を検討していく。</p> <p>○生徒に授業アンケートを実施する。</p> <p>○各教室に設置された電子黒板の故障が目立ってきたため、次善の策としてGoogleClassroomで代用することができた。</p>
		基礎学力の定着	<p>○家庭学習時間の確保と充実</p>	<p>○家庭学習時間の調査を年2回行い、学習指導に活用する。</p> <p>○家庭学習(週末課題)を課</p>	B	<p>○家庭学習時間調査の結果を学校全体で共有することができず、各学年だけの調査に終わった。来年度は学校全体とし</p>

				し、習慣づける。		て分析を行いたい。 ○家庭学習の習慣づけについても、学科コースの特性を考慮し、今後検討を進めていく。
	読書習慣の確立	読書活動の推進	○朝読書の完全実施  ○計画的な図書館利用	○定期考査期間以外は朝読書を実施する。  ○探究学習や特別活動などで図書館の利用を促進する。	B	○朝読書は計画通り実施できた。クラス毎に朝読書を図書館で行う、放送で開始を促すなど、円滑に進める仕掛けを検討したい。 ○環境を整えたことで探究活動での利用も増加した。 ○委員会作成の広報紙配布、展示や掲示の更新、ビブリオバトル実施等により、利用を促進することができた。
キャリア教育(進路指導)	進路保障	進路体制の再構築	○進路研究の充実  ○未来探究コースの育成計画の立案(国公立大学希望者2名合格) ○学力向上企画委員会を軸とした、生徒一人一人の学習段階に応じた指導体制および国公立大学入試に向けた指導体制の構築	○熊本県立大学を中心に入試問題の研究を教科横断で行う。また、地域探究コースおよび商業科の特色を生かした進学指導を行う。(推薦入試対策) ○模試の資料をもとに進路検討会を実施する。	B	○入試問題研究は教科ごとの実施となった。教科横断での研究を進めたい。 ○未来探究コースは共通テストを全員受験、県立大推薦合格に加え、一般入試でも国公立大合格が見込みまれる。また、商業科から事務職や商・経学部への進学地域探究コースから菊池市役所3名合格等、コースの特色を生かした進路選択も多かった。 ○3年1月の進路検討会には多くの職員が参加し、研修の場ともなった。
	キャリア教育の推進	進路に対する意欲の高揚と職業観の育成	○進路ガイダンスの実施  ○進路指導の充実と企業就職希望者全員合格	○進路指導部と外部業者が連携した講話を実施する。 ○企画部と連携し、先進校の視察や各種セミナーなどに参加して、そのノウハウを得て職員間で共有するとともに、生徒の指導に還元する。 ○上級学校説明会や企業ガイダンスなどをおして、自らの進路に向き合う機会を設け、主体	B	○1・2年次から外部機関と連携した就職・進学ガイダンスに参加した。校内でも地元の事業所と学校をお招きし、3月に実施予定である。 ○3年に向けて、HWや雇環協等外部機関と連携した講話、面接指導を実施できた。指導の枠組みは整ったにも関わらず就職選考で不合格になった生徒が多かった。再度システムを見直し、履歴書や面接の準備、学習など「今すべきこと」の

				<p>的な進路選択につなげる。</p> <p>○キャリアサポーターによる就職面接を3学年は1学期、2学年は3学期に実施する。</p>		<p>確認、徹底という基本に立ち返りたい。</p> <p>○2年次の進路調べキャリアサポーター面談、1年次の職業調べなど学年を中心とした進路選択への意識付けが上手く機能している。3年間の流れを構築、キャリアパスポートの充実を図る。</p> <p>○インターンシップは生徒理解に基づいた割り振りや指導で実りが大きかった。</p> <p>○生徒の活躍が個々の進路に生かせるよう、企画部と連携することが課題である</p>
生徒指導	生徒指導の徹底	基本的な生活習慣の確立	<p>○職場体験をとおして社会人に必要なマナーやスキル、勤労観を養う</p>	<p>○インターンシップに向けた事前・事後指導を複数回実施し、社会人としてのマナーや勤労観を身に付けさせる。</p>	B	<p>○整容検査後の再検査を徹底した。</p> <p>○指導票の累積による説諭や特別な指導を実施した。職員間で指導票の発行に偏りがあつた。</p> <p>○朝の登校指導で挨拶励行や、整容指導、遅刻者指導を実施し、一定の効果があつた。生徒会の関与が少なかつた。</p>
	安全教育の徹底	交通ルールの遵守と安全意識の高揚	<p>○段階指導の実施</p> <p>○遅刻の減少</p> <p>○挨拶の励行</p> <p>○私物管理の徹底</p>	<p>○整容面、生活面等の指導を段階的に指導する。</p> <p>○学年と生徒指導部が協力し合い、組織的に取り組む。</p> <p>○毎朝、正門で指導する。</p> <p>○生徒会のあいさつ運動を実施する。</p>	B	<p>○原付バイクの点検や実技講習会を実施した。朝の登校指導時に個別に指導した。集会等で交通ルールやマナーアップを図つた。原付バイクによる交通違反・マナー違反があつた。</p>
	特別活動の推進	生徒会活動の充実	<p>○社会のルールや規則等を遵守する指導の実施</p> <p>○防犯意識を高める取組の実施</p>	<p>○登校指導の実施</p> <p>○原付講習会の実施</p> <p>○原付バイク点検、自転車点検の実施</p> <p>○ヘルメットの着用義務化</p>	B	<p>○菊翔祭体育の部、文化の部、クラスマッチ等の企画・運営を熱心に行つた。生徒会や委員会の日常的な活動が少なかつた。</p>
		部活動の推進	<p>○生徒主体の運営</p>	<p>○生徒会活動や委員会活動を充実させ、学校行事を主体的に企画運営し、活性化を図る。</p>	B	<p>○地域の清掃活動にも部活動生が中心となり積極的に参加したいと考えている。また、部活動の主将や部長を集めてリーダー研修を計画し、活動環境を整えたい。</p> <p>○部編成時に部活動集会を行い、部活動の意義を説明した。昨年より1年生の加入が高かつたので継続したい。全体の部</p>

				<p>○部活動推進委員会を年2回実施し、委員からの意見や要望を部活動の活性化につなげる。</p>		<p>活動加入率が低いため、1年生向けの部活動紹介を在校生も聞かせ、2年次からの加入につなげたい。 ○体文振の保護者代表との連携が図れず、開催が出来なかった。校内でも総務部と部活動担当者での共通理解や仕事の分担も曖昧であったため、改善が必要。</p>
人権教育の推進	確かな人権感覚と人権意識の向上	共通理解と意識の高揚	<p>○週1回の推進委員会の実施 ○各種研修会への積極的な参加</p>	<p>○年3回程度の職員研修を実施する。 ○年1回以上の職員の各種研修会への参加を促す。 ○月に1回人権教育便りを発行する。</p>	B	<p>○全職員1回以上の各種の研修に参加し、人権意識の向上に資することができた。校内研修についても実施形態も含め工夫したい。 ○月に1回人権だよりを生徒・職員向けに発行することができた。</p>
	教育相談	相談活動の充実教育	<p>○支援体制の確立と共通理解  ○支援を要する生徒・保護者への相談体制の整備</p>	<p>○SC、SSW及び関係機関と連携した生徒支援を充実させる。  ○生徒支援委員会を隔週開催して共通理解を図り、支援の方向性と役割分担を明確化する。 ○生徒理解研修を学期に1回実施し、全職員の共通理解を図る。</p>	A	<p>○生徒の指導の一環としてのSC・SSW面談が効果的であった。SSWには受診同行などの継続的な関わりをしていただいている。SCには3クラスの全員面談を行っていただいた。 ○生徒支援委員会は隔週1回で開催することができた。生徒情報共有および支援の役割分担について共有することができたが、やはり学年主任が入るとよりスピーディーな対応に繋がるため、委員構成の見直しが必要である。 ○生徒理解のための研修を4回実施した。昨年からの改善で、2学期末に欠席・成績不振関係の情報共有と併せた研修ができた。</p>
	他者への思いやりを育む指導	生命の尊厳並びに、思いやりの心の育成	<p>○多様性を尊重し他者への思いやりを持たせる指導 ○寛容な心の醸成と他者に寄り添う態度の育成  ○正しい人</p>	<p>○学年の課題について、講師と実態の共有を行った上で、性に関する教育や人との関わり方についての講話を実施する。  ○正しい言葉の</p>	A	<p>○今年度は学年別の課題に対応した保健講話を実施することができ、事後アンケートによる自己評価での生徒の理解度は各学年で95%を超えていた。 ○1年生へは5月に、SCによるSOSの出し方の教育を行った。</p>

			権感覚を身に着けた言葉遣いの指導	使い方について、適宜集会等で指導を行う。		○年度始めに校医検診後に、生徒からの不適切発言があり、翌日に全校集会を開き、言葉の使い方に対しての指導を行った。次年度に同じようなことが起こらないような事前指導にもつなげたい。
いじめの防止等	いじめの未然防止 いじめの把握	いじめの減少	○いじめを生まない環境の醸成と、人権に配慮した被害生徒、加害生徒への対応・指導	○人権教育と連携し講話や全校集会等を実施する。  ○心のきずなを深める取り組みを全校生徒に実施する。 ○クラス活動を通して、コミュニケーション能力を高める教育を実施する。 ○職員研修を実施する。	A	○いじめの把握については、保護者による情報提供や心のアンケートによるものもあり、その後すぐに小委員会などの関係者で情報共有することができた。 ○心のきずなを深めるための標語を全校生徒で取り組んだ。  ○SSSTの実施（1年2回、2年2回、3年1回）。学年全体でのLHRも行うことができた。 ○情報集約担当やスクールロイヤーによる職員研修を実施した。
		いじめが疑われる事案の把握の増加	○事案の把握	○いじめ防止アンケートを各学期1回実施し、気になる生徒には速やかに面談を行う。  ○生徒の状況を把握するための生徒支援委員会を隔週1回開催する。 ○「いじめ防止対策委員会」を各学期1回開催する。	A	○各学期の心のアンケートは実施できた。面談旬間を利用し、継続した面談も担任の先生に行っていたが、クラスによる差も課題である。 ○隔週1回の生徒支援委員会は、SSWに可能な限り出席していただきながら実施できた。 ○生徒支援委員会や小委員会などの関係職員での情報共有や解決に向けての役割分担をすることができた。また、各学期のいじめ防止対策委員会にすべての事案を挙げて委員で協議を行った。
	いじめに対する措置	速やかな事実確認といじめ解消に向けた取り組みの実施	○職員の組織的な対応 ○いじめ解消に向けた計画的な対応	○関係職員で聴き取りを速やかに実施する。 ○いじめ事案の認知を積極的に行う。 ○SC・SSW等の活用を積極的に行う。 ○対応マニュアル	A	○いじめ対応マニュアルに沿って小委員会を繰り返し行うなど対応を進めた。双方の聴き取りについても関係職員複数で実施したが、同じ職員が両者の聴き取りを行うことは課題であり、生徒指導部と

				ルの点検を行い、活用しやすいように改善する。		の連携は不可欠である。 ○SC・SSWへも情報共有し、必要時には会議に入ってもらい助言をいただいた。
		人権に配慮した被害生徒・加害生徒への対応・指導	○被害生徒の立場に立ち、加害生徒への適切な対応をとる ○両者に対し寄り添いながら、継続した見守りと関係改善に向けた対応	○加害生徒及び関係した生徒の指導を適切に行う。 ○早期に保護者との連携を円滑に行うとともに人権に配慮した対応を行う。	A	○被害生徒の側により沿った対応を心掛けながらも、加害側とされる生徒にも指導と並行してカウンセリング等を実施しながらの対応を心掛けた。 ○いじめ解消に至るまでの生徒間の見守りについては全職員に周知し、担任に面談確認を依頼している。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	総合型コミュニティ・スクールの充実	地域や関係機関との連携	○行政機関や地域、関係機関との連携強化	○関係機関と連携し、本校の教育活動を充実させる。  ○学校運営協議会を通じて本校の課題と改善策を見いだす。	B	○地元自治体や関係機関、大学等と連携し、探究活動等において、教育活動を充実させることができた。また、DXハイスクールの活動についても3大学と連携し専門的な指導助言等を受け、活動を深化することができた。 ○年に2回学校運営協議会を開催し、本校の実情の確認と課題について協議を行うことにしている。課題解決に向けた提言等もいただいた。
		防災教育の充実	○生徒と職員の防災・減災に対する意識の向上とそれに関する基本的な知識の獲得	○防災訓練を実施する。  ○防災啓発の掲示物を作成する。  ○外部講師・地域と連携した防災教育を行う。	B	○地震・火災時の避難訓練を実施することができた。生徒への周知と職員の防災への意識を高める取組に工夫が必要である。次年度は、職員向けの研修の企画を考えたい。 ○防災啓発の掲示物については、作成できなかった。次年度は、教科と連携することを考えたい。 ○外部講師を招くことはできなかったが、菊池北消防署を招いて、訓練を行うことができた。
	ボランティア活動の推進	心豊かな生徒の育成	○ボランティア活動の活性化	○生徒会主催ボランティアを実施する。  ○市や地域と連携し、諸活動に	A	○生徒会主催による清掃ボランティアでは例年より意欲的に清掃していた。 ○生徒会が主となって地域のボランティ

				参加する。 ○ボランティア 委員会の設置及 び活動促進。		アに参加した。 ○生徒会担当職員が ボランティアの窓口 となった。 ○上記以外にも対外 的なボランティアに ついては企画部が担 当した。
学校理 解	学校理解に 向けた活動 の推進	○本校から 地域への協 力と本校学 校行事への 協力要請 ○学校行事 への育友会 協力のため の連携充実  ○本校の学 校行事や教 育活動の情 報発信	○地域から要請 される清掃活動 等へ積極的に協 力する。 ○育友会活動が 円滑にできるよ うに協力する。 ○育友会関連行 事への保護者参 加の増加を図る ため、役員会を 充実させる。 ○育友会広報誌 「大椋」での学 校行事紹介や活 動報告の充実を 図る。 ○学校 HP での 情報発信や、保 護者にすぐる で情報発信を行 う。	B	○早めの情報提供、 出欠の集約など組織 的に対応することが できなかった。他の 部のとの連携が必要 である。一人一役で 一度も参加されない 保護者への呼びかけ 等が継続課題である。  ○各学期、広報委員 会の活動が充実し、 計画的に育友会広報 誌「大椋」を発行す ることができたが、 保護者・職員の一部 の負担増加が課題で ある。	

#### 4 学校関係者評価

- ・「本校に入学してよかったと思っている」の項目が、生徒、保護者共に8割を超えているのは、とても良いことだと思う。このことを前面に出し、生徒も職員も自信をもって教育活動に取り組んでほしい。
- ・アンケートで「いじめ」については、約30%の方が否定的な意見がある。大部分が肯定的と説明され評価されていたが、3割の生徒が問題があると回答していることが問題である。先生と生徒に乖離があるのではないかと。極力100%に近づけるべきである。
- ・アンケートで、生徒、保護者とも学校への満足度が高い結果が出ているのは素晴らしいと思う。
- ・志望につながる中学生との関わりをもっと増やしていけばよりよくなるのではないかと。
- ・先生方の様々な努力があり、評価につながっていると感じた。
- ・詳細な評価項目において、数値評価による可視化が図られていると思う。
- ・先生方の御努力に感謝を申し上げます。今年度の学校評価については、生徒・先生方で学校を作り上げていく中で、学校外の力を取り入れながらよりよい学校づくりに取り組むのは大変だと思う。もっと学校運営委員に気軽に声かけしていただき、活用してほしい。
- ・学校運営委員は協力的かとか、役に立っているか、などの項目があってもよい。
- ・生徒と一緒に取り組まれていることがわかった。
- ・入学生徒が多ければもっと活性化すると思う。
- ・卒業生のOBもたくさんいるので、その活用を考えてみたらどうか。
- ・評価項目の数値の高いものと低いものをどうすれば改善できるのか、生徒と一緒に考えると、どんなことに取り組むと良いのか、アイデアが出ると思う。「教育」「生徒」が主語ではなく、「教師」が主語のように説明を聞いて感じた。自主性を高めるためにも生徒の意見を取り入れられるような生徒参画の企画をしてはどうか。
- ・生徒、保護者ともに学校への信頼感が高いことに安心した。生徒の学校への帰属意識を高める取組をさらに進めてほしい。

#### 5 総合評価

- ・職員の見組みや苦勞がよく分かった。
- ・各部とも試行錯誤しながら意欲的に取り組んでいることがわかる。各部それぞれ成果がでてきている。各部の見組みを、もっと学校外に発信していただいたらよいと思う。また、成果をさらに伸ばすように見組みを継続し、さらなる活性化を期待している。
- ・基礎学力、コミュニケーションに課題がある。具体的にどんな力が不足しているのか分析して、中学校と連携して、高校だけでなく小中高連携して取り組んでほしい。
- ・小中学校の授業は、対話を重視するようなスタイルが主となっているので、生徒が先生の話をして

- 時間聴いて学ぶことに苦手意識が出ると思う。非認知能力を高める取組を、ある中学校では研究されている。その成果として学校授業は好き楽しいという数値が上がったり、不登校性が昨年より20名も減少したりしたと聞いている。生徒が退屈しない取組が必要である。
- ・生徒指導上の不適切行や犯罪、若しくは犯罪につながる重大行為など、生徒に対して法令順守等を徹底して指導するとともに、社会人として立派に活躍できる生徒を育成していきたい。
  - ・生徒指導については、先生と生徒・保護者のイタチごっこにならないようによく話し合いながら進めるとよいのではないかな。
  - ・就職希望の生徒も半数程いるので、希望があれば商工会員の職場体験等もできるようにしたい。
  - ・進路ガイダンスについては、消防本部も優秀な人材確保のために積極的に取り組んでいる。今後も恒久的に開催し、協力していきたい。
  - ・出願者を増やす取組として、受験生にもっとアピールが必要である。
  - ・進路指導については、まず全員進学を目指して勉強を始めて教養を身に付けさせていきたい。
  - ・コミュニケーションスキルの向上は必要不可欠な課題ある。
  - ・明るくて友達が多いというより、人との意思疎通がきちんとできる人材を育ててほしい。
  - ・SNSによる情報発信も大切である。Facebookやインスタの作成も、DXハイスクールの事業の中でも学習内容に取り入れ、SNSの危うさについて、生徒が学べる機会をつくってはどうか。
  - ・総務部としてチーム菊池を充実し、実のあるものにしていく。
  - ・企画部の取組として、活動範囲を菊池市街地からもっと出て菊池全域に広げてほしい。
  - ・「心身サポート部」という新しい分掌の公務化、適時性を得ている取り組みである。各部先生方の頑張りに期待している。
  - ・商業科は即戦力の資格が取れるという一定の人気がある。資格取得にもっと力を入れたい。
  - ・商業科の活動として実践的な活動を期待している。商業科の取組や生徒の活動が目に見える形にし、入学者増につなげたい。

#### 6 次年度への課題・改善方策

- ・菊池高校の良さや成果をもっとアピールする必要があると思う。そのような場を設定することにより、コミュニケーション力や自己肯定感が高まることにより、就職、進学の良い結果につながるはずである。
- ・中学校の連携をさらに進めてほしい。まずは、教職員同士が交流することが一番ではないかと思うので、授業参観や授業や生徒指導等で話し合う場を設定されたほうが良いのではないかな。
- ・全体的に発信力が弱いと思う。マスコミ等に積極的に情報を発信し、魅力化につなげたい。
- ・自転車のヘルメット着用が徹底されてない。命に関わることでもあるので、指導を徹底したい。
- ・DXハイスクールの取り組みはとても素晴らしいと思う。専門分野を学習できれば、これからの社会に対応した人材育成につながると思う。
- ・商業科は、全員簿記3級合格して卒業するくらいの意識が欲しい。
- ・現代における学校教育は多事多様で、教育の成果はその時の結果論だけで判断しては良くないと思慮する。何が正解かは、数十年後に受けた教育により、社会貢献できる人材を育む事だと考える。いろんな見方による取り組みを行われても良いと思う。
- ・入学希望者の減少の理由をイベントや菊池高校の特色ある取り組みが原因ではなく、授業のあり方ではないか。今の子供たちは、AIの進化による学ぶことのとらえ方が大人と違うと感じている。知識の習得よりも非認知能力を上げる高校に魅力を感じると思う。授業で寝ている生徒は、その原因は生徒ではなく、寝てしまいたくなる授業（教師がしゃべりすぎ）が原因だと思う。腰をすえてもう一度授業を大切に先生と生徒が増えるように期待している。
- ・公立・私立の垣根が低くなって生徒募集の競争が激しくなっていくことが予想されるので、菊池高校教育の魅力発信にさらなる工夫と創意を期待している。